



「不十分なモデル」を基に、目ざす文章の構成や表現を具体的に捉える。

実践2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント —「伝統工芸のよさを伝えよう」(四年)

実践2

東京都渋谷区立富谷小学校 指導教諭 佐藤 綾花



「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、学習の目標に向かって粘り強く自己調整しながら進んでいる児童の姿を見取ることが必要です。具体的に、学習を自己調整している児童の姿とはどのような姿なのかをイメージできていなければ、そのような姿をキャッチして評価することはできません。

さらに、学習を自己調整している児童の姿は

児童の姿	教師の役割
① 学習の目標をもっている	学習の目標を明確に捉えさせる。
② 自分の学習を見直している	学習を見直す習慣をつけさせる、見直すことができる程度の学習の余白の時間を設定する。
③ できていること、できていないことに気づき、新たな目標を設定している	見直すときの具体的な観点を捉えさせる。 (例)「自分はできているつもりでいたけど、この観点到照らし合わせてみたらできていないことが分かった」
④ 見いだした新たな目標に向かって今後の学習を修正しようとしている	「修正するためにはこういう方法が有効」というような学習方法をつかませる。

単元全体のさまざまな場面で表れてきます。1 時間の最後や単元の終末に振り返りをさせて、その様子だけを見取るのではなく、学習活動中や学習活動に向かう前の児童の様子をつぶさに見取っていくことが大切です。

そこで、私は、自己調整している児童の姿を大きく次の四つに整理して捉えています(表1)。そして、これらの児童の姿が見られるよ

うにするための教師の役割を意識しています。さらに学習を自己調整しようとしている児童の姿が見えやすくなるように、振り返りの観点を与えたり(今日はここまでできた、できなかったことは、次は〇〇をどのようにしたい等)、考えが加わったり変更したりしたことを色を変えて書かせたりしています。

このように、「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、見取る観点を予め具体的に想定すること、目ざす姿が表れるように指導すること、そして適切に評価することによってさらに「主体的に学習に取り組む態度」を育んでいくことが大切であると考えます。

次に示すのは四年生「書くこと」単元の実際の様子です。

単元計画

評価の観点

「知・技」(2)ア
「思・判・表」B(1)ウ
「主体的に学習に取り組む態度」
「主体的に学習に取り組む理由や事例との関係が分かるように、進んで書き表し方を工夫しようとし、学習の見通しをもって調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。」

学習活動(全9時)

- 1 モデル事例を分析することを通して学習の目標を明確にし、学習計画を立てる。
- 2 自分が選んだテーマについて調べ、情報を整理するとともに、自分の考えをまとめる。
- 3 自分の紹介文の構成と文のつながりについて考える。
- 4 「初め」「中①」の段落を記述する。
- 5 「中②」「終わり」の段落を記述する。
- 6 理由や事例の挙げ方に注目して紹介文を読み合い、よさを伝え合ったり質問をしたりする。
- 7 読み合いを生かして文章を修正する。
- 8 紹介文を読み合い、書き方のよさを伝え合う。設定した相手に紹介文を読んでもらう。

目ざす児童の姿① 確かめた観点を基に、自分の文章を読み直している

*教師の役割・工夫

児童自身が考えた「紹介文を書くときのポイント」を、掲示物に残したりメモをさせたりしておく。

↓具体的な見取り

構成を考えたり記述をしたりするときに、掲示物やメモを見てポイントと比べながら自分の文章を読み直している姿を見取る。

目ざす児童の姿② できていないことに気づき、次時の目標を設定している

*教師の役割・工夫

毎時、「できたこと」「できなかったこと」「次の時間にしたいこと」の主に三つの観点で振り返りを書かせる。

(児童の記述の例)

今日は終わりの段落を「このように」を使って、前の段落と結び付けて書けた。「一文を短くする」ところができていないと思うから、次の時間に直して友達に見てもらいたい。

↓具体的な見取り

ポイントと比べることによって、できなかった

たことを見だし、次の時間の目標を設定している様子を見取る。

*教師の役割・工夫

授業の冒頭で前時に学習したこと、本時にしたいこと、どのように進めたいかを児童が話す時間を設定。

↓具体的な見取り

児童の話す様子から見取る。できなかったことやしたいことが曖昧な児童も、理由を問うと自分なりの理由を説明できることがあり、それも評価した。

目ざす児童の姿③ 自分の文章を修正しようとしている

*教師の役割・工夫

元の文章は黒鉛筆で、付け足しや修正したところは色鉛筆で書くよう指示。児童自身も自分の変容に気づきやすくなり、自己肯定感を高めることにもつながった。

↓具体的な見取り

記述する中で取材不足に気づき、前の学習過程に戻り資料を調べ直している様子や、友達との交流や教師の助言によって、付け足したり修正したりした様子を文章から見取る。